

令和3年度 学校評価総括表

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校（全日制課程）

学校運営方針（4月）		総合評価		
教育目標	○ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。 ○ ものづくりとビジネスの実習・演習を通して、専門的な知識や技術・技能を身に付けた社会に貢献できる生徒を育成する。	B		
学校運営方針	・ 地域社会・地域産業と連携・協働し、高等学校普通科教育並びに工業科・商業科等に関する実践的な教育を展開し、地域を担う将来のスペシャリストを育成する。 ・ 生徒一人ひとりの成長を支援し、生徒自らが自身の成長を実感できる教育を推進する。			
昨年度の成果と課題			本年度の重点目標	具体的目標
主体的に挨拶ができる生徒が増えてきた反面、日常の規範やモラルがしっかりと身に付いていない生徒が一部いることから、規範やモラルの大切さについて職員の共通理解のもと、あらゆる角度から指導していく必要がある。 主体的で意欲的な生徒の育成と、工学系とビジネス系を併設する専門高校として、特色ある学校づくりを推進するため、あらゆる教育活動の場面で全教職員が目標を共有し、協働して教育活動を進める必要がある。 令和4年度の新教育課程導入に向け、工業科と商業科を併設する学校としての特色をさらに打ち出し、なお一層魅力のある学校となるように教育課程の編成を進める。			(1) 工学系とビジネス系等に関する基礎的基本的な知識や技術・技能を身に付けさせ、社会の様々な変化や多様な課題に対応することのできる力を育成する。	・ 専門教育の活性化を図るとともに、商工協働型の探究学習の在り方を検討する。 ・ インターンシップ・デュアルシステムを推進し、地域社会・地域産業との連携・協働を進める。
			(2) 規範意識を高めさせるとともに、社会の一員としての自己の役割について認識させる。	・ 挨拶、身だしなみ、清掃、時間厳守などの指導を重視し、社会性と規範意識の向上を図り、自己有用感を高めさせるとともに、地域からも信頼される学校づくりに努める。
			(3) 目的意識をもち協働的に粘り強く取り組むことができる精神力や体力、協調性を養う。	・ 部活動の活性化により、達成感、連帯感、協調性を育む。また、身体測定、健康診断、体力テスト等を用いて自己の体の状況を適切に把握させ、体力向上の重要性を認識させる。
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、感染症対策を含め安心して学校生活を送ることのできる環境の整備に努め、安全衛生管理体制を確立する。	・ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じるとともに、あらゆる活動場面において環境の整備を適切に行う。また、生徒の防災、減災意識を高める指導を徹底する。	
		(5) 学校の魅力や特色を校外に積極的に発信するとともに、地域の一員としての学校の在り方を構築する。	・ 学校ホームページをはじめ広報活動を充実させるとともに、感染防止に留意し、地域の一員として、地域に貢献できる取組を推進する。	
		(6) 教職員の健康管理を重視し、働き方改革推進のため勤務時間等の把握と管理を徹底し、より質の高い教育活動に繋げる。	・ 各分掌、学年等が担う業務を明確にし、適宜個人面談や連絡会等の機会を設けて教職員間の円滑な連携や協働体制を構築する。	

教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	自己評価結果			成果と課題（評価結果の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価及び改善方策
教務	・ 成績不振生徒減少に向けた取組の充実	・ 各学期成績不振生徒の減少（不振科目1科目以上保有生徒10%以上減）を目指す。 [A:10%以下 B:15%以下 C:20%以下] (昨年度1学期9.3% 2学期17.8% 学年末3.7%)	B	B	B	・ 成績不振生徒（欠点科目1科目以上）は第1学期13.7%、第2学期13.2%であった。うち、第1学期は61.0%、第2学期は61.6%の生徒が補充講座、追調査の結果により補正（保留の生徒は除く）された。 ・ 第1学期考査後家庭学習のアンケート結果は、「毎日やった」「まあまあやった」合わせて66.8%、「まったくやっていない」8.4%となる。 ・ 第2学期考査後家庭学習のアンケート結果は、「毎日やった」「まあまあやった」合わせて69.9%、「まったくやっていない」8.3%となる。 ・ 授業アンケート結果は、質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」A そう思う B だいたいそう思う 合わせて第1学期86.9%、第2学期も89.4%となる。	本年度も、時差登校、分散登校、短縮校時、夏期休業の延長、出席停止や学級閉鎖等によるハイフレックスによるオンライン授業と、昨年度とも、また違う一年となった。 そういった状況下ではあり、なかなかむづかしいところではあったが、一通りの学習活動が行われたのではないかと思う。 生徒にとっては、様々な理由により、家庭で真摯に学習に取り組む時間が増えたとは言えない面もみうけられる。家庭での学習に対する時間が増えるような手立てを考えていかなければならない。 今後も、引き続き、感染防止対策を取りながら、再び同様の事が起こった場合にも対応できるような動画配信等の態勢を整えていくとともに、学習活動に極力影響が及ばないように、学校全体としてさらに体制を整えていかなければならないと思う。	卒業後、社会人になっても、熱心に勉強している。 (学校評議員) 家庭学習の定着に取り組むとともに、校内での自学自習のための環境づくりに努める。
	・ 家庭における学習時間の増加に向けた方策の構築	・ 本年度各学年「まったくやっていない」生徒の減少を図る。[A:5%以下 B:10%以下 C:15%以下] (昨年度1学期5.5% 2学期9.3%)	B	B				
	・ 授業の充実	・ 授業アンケート質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」の回答において（そう思う）・（だいたいそう思う）合わせて80%を目指す。 [A:80%以上 B:75%以上 C:75%未満] (昨年度1学期83.5% 2学期82.4%)	A	A				
生徒指導	・ 基本的生活習慣の確立	・ 遅刻防止の指導を徹底し、昨年度比10%減を目指す。 [A:10%以上 B:5%以上 C:5%未満]	C	B	・ 遅刻数について、昨年度は4月・5月が家庭学習だったので、2学期だけの比較になるが、昨年度より増加している。 ・ 昼食時に担任の先生が教室で食事指導を実施していることにより、校内でのスマートフォンの使用は格段に減ったが、ロッカーに入れず、ポケットに所持している生徒もかなりいる。 ・ 毎朝の服装、化粧等の指導についてはHRによって差が出てきている。同一歩調による指導が必要である。 ・ 時差登校の間は、多くの先生方が登校指導に参加していたいたおかげで、元氣よくあいさつのできる生徒が増え	・ 月に5回以上遅刻した生徒を対象に、月初めに遅刻指導を実施しているが、効果は不十分である。遅刻指導に至るまでに各HRでの取り組みが必要である。 ・ 服装・頭髪等の指導は、入学時から毎朝、両担任で服装・頭髪の確認を済ませてから、号令、あいさつという流れとなるよう、協力を要請する。 ・ 月1回の頭髪点検を学年主任に任せているところがある。担任の先生が変化に一番気付けるはずなので、月1回の学年主任の点検で指導を受ける生徒が出ないように、各HRで取り組んでもらう。	規範意識やモラルの学習を更に進めれば、スムーズに仕事に馴染めるのではないか。 (学校評議員) 社会では規範意識やモラル・マナーの遵守が求められることをしっか	
		・ 休憩時間等に校内巡視を行い、スマホ使用禁止を徹底する。	A					
	・ 規範意識の醸成	・ 毎朝、担任による服装、化粧指導を行う。	B	B				
		・ 月1回頭髪の点検を行う。	B					
・ 道徳心の向上	・ 挨拶を励行する。（挨拶運動の積極的な展開） [生徒会等による挨拶運動1回/月]	A	A					
	・ 毎朝の登校指導や校外巡視を行い通学マナーの向上を目指す。	A						

		<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室、薬物乱用防止教室、情報モラル講習会等を実施する。 [各学年1回/年] 	B			<ul style="list-style-type: none"> た。通常登校でも元気よくあいさつのできる習慣を定着させたい。 アンケートの実施による、いじめの発覚だけでなく、担任の先生の日々の生徒との関わりの中で発見できた例もあり、当該学年を中心に早期に組織対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、2班編成の朝の登校指導を1班に編成して増員する。 多くの先生に登校指導に参加してもらえるよう、職員朝礼の開始を8時20分とする事と、分掌長等が職朝連絡の伝え方を配慮してもらいたい。 スマートフォンの使用については、登校したらすぐに貴重品とともに、鍵付きロッカーに入れることを習慣化させる。 1、2学期の中間考査後に短縮授業を実施し、考査の結果を受けての教育相談期間を設けることも検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> りと理解させ、規律ある学校生活を送ることができるよう指導を継続する。 貴重品、スマートフォン等の管理について日々のSHRで徹底する。
	<ul style="list-style-type: none"> いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎にいじめアンケート調査を実施し、早期の発見、解決に努める。 [いじめ対策委員会2回/学期] 悩みを抱えている生徒には当該担任だけでなく教育相談係を中心に学校全体で支援に当たる。 [教育相談担当者・SCとの連絡会を学期に1回開催する。A:年間4回以上 B:3回 C:2回以下] 	A	A				
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導の充実 進学指導の充実 インターンシップ、デュアルシステムを活用したキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対して、自己を知り、受験先の情報を知ることの重要性を伝える。 面接指導や就職試験対策指導を充実させ、就職試験に対応できる力を身に付けさせる。 [1次試験内定率： A:85%以上 B:80%以上 C:80%未満] 進学の受験制度や、進学費用について、周知に努める。 進学希望者に対して、自分が何を学びたいのかをしっかりと考えさせる。 進学希望者への補強講座を充実させ、国公立大学を含めた専門高校推薦、公募推薦に対応できる実力を身に付けさせる。 [国公立大学等進学者数： A:2人以上 B:1人 C:0人] 進路指導部と各学科、学年が連携し、インターンシップやデュアルシステムを通して職業観、勤労観を育む。 [インターンシップ参加人数の割合： A:60%以上 B:50%以上 C:50%未満] 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職の1次内定率が、工業系で89.7%、ビジネス系で84.1%、全体として87.3%とコロナ禍ではありましたが、昨年度より内定率が上がった。 面接指導は、夏期休業が延期された中、少人数で対応することで当初の計画並みに実施することができた。 公務員について、1人の生徒が複数の合格をした者もあり、防衛省技官・大阪府技術・奈良市・宇陀市・京田辺市・奈良県庁（警察官事務）に合格できた。専門学校で実施される無料セミナーにも積極的に参加し、生徒本人が努力した結果であると思う。 奈良工業高等専門学校に3年ぶりに合格することができた。専門学校推薦や公募推薦にも積極的に挑戦した。 デュアルシステムは、実施期間を絞って実施することができた。 インターンシップは、夏期休業中は実施を見送り、春期休業中に計画をしていたが、コロナの影響で実施を見送った。インターンシップ実施に向けて、経済産業協会と奈良商工会議所と連携し、インターンシップ先の確保を計画はしたが、見送ることになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現をするために、基本的な生活習慣をしっかりと身に付け、常に遅刻・欠席が少ない状態で、しっかりと挨拶・返事、身だしなみをきっちりすることが当たり前であることを生徒に自覚させる必要がある。 進路決定の際に、科の特性を活かせるようにする。 進路を決める際に、生徒が具体的に就きたい仕事や学びたい学部等を考える機会を増やすために、3年間を通して進路HRの計画を再考する。 進学の際に総合型選抜や指定校推薦を利用するものも多いが、専門校入試や公募推薦入試を用いて国公立大学に挑戦できるように、先生方に情報を共有し、補強講座を設ける必要がある。 公務員対策セミナーの案内を広く周知できるようにする。 インターンシップを実施する時期を複数回にすることで、生徒の参加の機会を確保する。 OBOGを招聘して、学生時代の取組や、実際の仕事内容や進学先で学ぶ内容を生徒に伝えることができる機会を増やす。 外部の方とのやり方その際に、オンライン対応ができるように検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門高校での学びを生かし、県内企業において、卒業生が活躍している。(学校評議委員) 商工会議所や経産協会とも連携し、インターンシップやデュアルシステムを推進し、実学教育の充実を図る。 進学希望者への指導・支援を一層充実させる。
人権教育 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権尊重の精神を根本とした全人的な成長を保障するための教育活動の充実 特別支援教育体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や社会の変化に適応した人権HRを企画、立案する。振り返りを行い、理解度を深める。 [アンケート調査において 「よくわかった」「わかった」という回答 A:75%以上 B:60%以上 C:45%以上] 人権啓発集会、職員研修を実施する。職員研修は年1回以上行う。 配慮を要する生徒の把握に努め、教職員、生徒、保護者の共通理解により支援と指導の充実を図る。 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年それぞれ年間計画に基づいて人権HRを展開したが、新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう行事の変更などが発生した。振り返りによる理解度は約86%であり、おおむね良好と判断される。 1年のHRに向けての研修を、講師の協力を得て定時制を含む全校研修に拡大し、教員の理解が深まった。 感染予防のため、人権啓発集会を学年ごとに実施した。3年は予定通りだったが、2年は感染の急増により中止、1年はクラス単位で講演の配信を視聴することにした。 各学年にコーディネーターが配当され、要配慮生徒の把握がしやすくなった。要支援生徒への支援員も配置され、支援や指導が進んだが、各科目の評価に至る体系化が課題だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降の中期計画の策定に向け、「人権教育推進プラン」と関連付けながら、3年間の人権HR計画を立てる。その際、他の分掌との協同にも配慮する。 学校全体としての総合的な職員研修にとどまらず、外部の研修への積極的参加や自発的な研修をうながす。 特別支援委員会を定期的に開催して要配慮生徒の拾いあげを一層進めていくとともに、個々の生徒の変化などの情報共有し、個別の支援計画に反映させる。 各教科・科目の支援や指導の取り組みが体系化され、評価へとつながっていくよう、教員の研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他ともの人権を大切にできるよう、計画的にHR計画を立てる。 職員研修の充実を図る。
図書	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を通じた、思春期の豊かな感受性の育成と自己形成力の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のMSRなどを通じて、図書への関心を高めるための読書活動を推進する。 [アンケート調査における肯定的評価 A:80%以上 B:65%以上 C:50%以上] 図書館利用の授業を推進し、読書習慣の定着に努める。 [図書館利用授業回数延べ10回以上 (昨年度2回)] 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対応の影響などによりMSRの時間の確保は十分とは言えなかったが、昨年度よりは確保できた。 図書館からの発信を昇降口の掲示板で行い、希望図書の募集など読書活動を推進した。 図書便りのPANDORAをカラーにし教室掲示することで、視覚で本に興味を持たせるきっかけになった。カラーにすることでホームページでも図書便りの中身が分かりやすくなった。 耐震工事による図書館の引っ越しに伴い、徹底的に蔵書の点検整理ができたが図書館が利用しにくい状態にあった。 ソーシャルディスタンスをとる必要があるため、授業で 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校図書館に求められる7大要素（1.教科との連携、2.校内図書館活動、3.図書館整備、4.他の図書館との交流、5.蔵書管理、6.学校行事との連携、7.カウンター業務）を整えていく。整えることにより高校図書館の機能（①学習センター機能、②読書センター機能、③情報センター機能、④教材センター機能）が充実する。 本校は、工学系とビジネス系が併設された特色のある学校で、主体的で意欲的な生徒の育成が求められる。このため、専門的な知識や技術・技能を身に付け社会に貢献し地域を担う将来のスペシャリストの育成を目指している。基礎的基本的知識や技術・技能を身に付けさせ、社会の様々な変化や多様な問題に対応できる力を身に付けるためにも、高校図書館機能 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における図書館利用について継続して工夫を進める。

						<p>の図書館利用が難しいところもあるが、家庭科の授業や観光ビジネスの授業、文化祭 HR などでの利用があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、1月に図書の福袋を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・司書選定図書20袋（3冊/袋）が30分で完了。 ・生徒から「バレンタイン福袋」の開催要望が上がるなど好評。 ・100周年記念として第1回「天空の図書館川柳コンクール」を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・想定を超える206作品の応募。 ・応募作品から生徒個々の新たな感性を知ることができた。 ・廃棄予定図書及び雑誌を利活用した「古本市」を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・約350冊の展示のうち、約110冊が引き取られた。 	<p>の充実と活用が求められる。（「情報はインターネットで得ることができるが、知識は本で得るものである」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状において、速やかな改善を要する項目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科との連携 ・各学科コースの生徒の進路先に沿った情報提供資料の不足 5. 蔵書管理 <ul style="list-style-type: none"> ・学習センター、情報センターとしての機能が確立できていない。 <p>特に、5. 蔵書管理については緊急対応が必要である。</p> <p>令和4年3月に市販の図書館管理ソフト（egg/キハラ）が導入見込みとなった。システムをフル活用するためにも閲覧・検索性PCの整備、個人端末からの予約・検索性、情報共有等の利用促進を図る図書館運営を目指す。</p>	
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動及び各種委員会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動全般を通して、生徒会役員の自主的、自発的な意識向上に努める。 <p>[生徒会による挨拶運動の実施 A:年間6回以上 B:5～3回 C:2回以下]</p>	B	B	B	<p>今年度も新型コロナウイルス対策によって行事の延期や制限によって十分な活動ができなかった。その中でも生徒は後ろ向きになることなく、できる範囲で熱心に工夫して取り組んでくれた。100周年記念事業についても多くの生徒が有志として参加し、生徒会とともに学校を盛り上げる努力をしてくれた。</p> <p>文化祭については昨年度に続き映像のみでの取組となったが、昨年度より完成度の高い作品作りに努めてくれた。しかし、内容については少一層の工夫が必要である。コロナ禍の状態が継続しても、来年度は大幅な内容変更を行うべきであるとする。文化祭を含め、各種委員会に生徒会から取組を依頼すべきであった。</p>	<p>ウィルスの感染状況によるところが大きいが、できる限りの感染対策をもって各行事に取り組んでいきたい。特に文化祭においては、生徒の意見を多く取り入れ、教員への理解を得て、新しい形を模索していきたい。</p> <p>各種委員会の活動においては各行事での役割をつくることで、その他の活動へとつなげていただきたい。コロナ禍の現状から日常を取り戻すのは少しずつであるが、その時できることを常に考え、活気のある学校を創るため立ち止まらないように積極的にチャレンジしたい。</p>	<p>学校行事の一層の充実に向け、工夫と改善に努める。</p> <p>コロナ禍での行事のあり方について関係部署と連携し、安全を優先しながらも活気のある内容となるよう工夫する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や今年度の100周年記念などの各行事、活動において各種委員会、各分掌などと連携して運営に取り組む。 	B					
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入率の向上及び維持を目指す。 <p>[A:65%以上 B:55%以上 C:45%以上]</p>	B	B	B	<p>各部公式試合等は中止となることも少なく活動目的が失われることはなかったが、何度か活動の自粛期間があったことで生徒のモチベーション維持に各部顧問が苦慮されたと思う。</p> <p>部員集会も今年度1回しか行うことができなかった。学校を活気づけるための活動として行うためにも、より工夫すべきであった。</p>	<p>部活動の活性化は活気のある学校に直接繋がる大切な取組であるとするため、生徒の充実した時間となるよう各部顧問の先生方の協力をお願いしたい。併せて、集会等生徒会からの発信に取り組み、学校全体としても部活動を盛り上げたい。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動活性化のための、集会等での働きかけ、情報発信に注力する。 	B					
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康保持増進を高めるための基本的な生活習慣と運動習慣の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査票等の集約を周知し早期に共通理解を得る。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら身体測定、各健康診断を予定どおり実施できた。 ・食事や栄養状態等については、保健体育の授業を通してバランスの良い摂取を促し、生徒の様子を観察するにとどまった。 ・各大会への出場が目標となり、部活動を継続する生徒のモチベーションの保持に繋がった。 ・スポーツテストについては、コロナ禍において実施が大幅に遅れた種目もあったが、感染症予防対策を講じながら、順次進めることができた。 ・感染症予防においては、石けん、消毒噴霧器の消毒ポイントを更に増加し、業間における手洗いとうがいの励行を行った。 ・保健委員による感染症についての放送を週に2回行い、全校生徒に感染症予防を呼びかけ、意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に関するアンケートについては、コロナ禍において令和3年度実施できなかったため令和4年度は計画的に実施する。 ・スポーツテストについては環境整備を行い、感染予防への意識を高め全種目実施できるよう進める。 ・一日の運動時間が体育の時間のみとなっている生徒が多く、体力の向上や免疫力を高めるため、日常生活において継続した運動習慣が身に付くような指導を進める。 ・教室、体育施設等の換気とマスクの着用が常に心がけられるようになっている。 ・コロナ禍が続く中、教員の巡視により、黙食への意識が高まり、定着してきた。withコロナにおける生活様式の変化に対応できるよう食事時間の巡視を継続する。 	<p>校内の消毒作業等、感染予防策を継続して徹底する。</p> <p>保健委員会等と連携し、生徒を主体とした感染防止意識の向上に努める。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・食育に関するアンケート調査を実施する。 	C					
		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストによって運動習慣のアンケート調査を実施する。 	C					
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部加入率を上げることによる基礎体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部への加入率増を目指す。 <p>[A:55%以上 B:45%以上 C:35%以上]</p>	B	B				
		<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関心をもたせ、毎時間トレーニングの時間を確保することにより運動習慣を構築させる。体力テストの合計得点を過去5年の学年別平均点からの向上を目指す。 <p>[A:3点 B:2～1点 C:0点以下]</p>	C					
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断等における計画的、継続的な取組 	B					
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断によって受診勧告を受けた生徒には家庭との連携を密にし、受診率を上げる。 <p>[A:100～90% B:89%～75% C:74%以下]</p>	B					
		<ul style="list-style-type: none"> ・寛解、治癒の報告数を高める。 	B					
		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として教員間の連携を図り、予防と初期対応を行う。 	A					

環境整備 【防災管理・ 安全教育】	・環境美化の啓発	・日々の清掃活動をとおして地球温暖化を踏まえた環境意識及び実践力の向上に努める。校内全体の清掃を年4回以上実施する。 [A:6回以上 B:5~3回 C:2回以下]	B	B	B	地球温暖化防止や5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を踏まえた美化活動や環境対策活動の意識や実践力を高め、快適な学校環境づくりや環境にやさしい人づくりに努めた。環境委員を中心に新型コロナウイルスに配慮しながらであったが、様々な活動に対して少しずつ、以前の活発な活動に立ち戻る一歩となった。また、感染症予防による手洗い・換気の徹底により節電や節水に関しては厳しい状況であるが、小まめな節電など可能な範囲で成果を上げている。調査前の大掃除を実施するなど、校内環境美化を推進した。加えて、省エネ・省資源活動を生徒と教職員が一丸となって取り組むとともに、校内美化やゴミの分別に対する意識が年々向上しており、未来に続く継続的な活動に取り組むことができた。今後、生徒による環境美化意識を育成するための体制を整える方策を考えたい。 「花いっぱい運動」などの植栽活動は、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、美化委員生徒の協力により校門脇だけでなく卒業式に向けての新たな活動に取り組むことができた。 1学期に避難訓練と3学期には消火訓練を1回ずつ実施した。昨年に続き、新型コロナウイルス感染予防を考慮して、商業工業系統別に実施し、意識の向上を図ることができた。～災害発生時に被害を最小限に抑えるためには普段から迅速かつ適切な活動内容を理解する必要がある、危険を回避・予測するための意識付けを養う活動を考えたい～	種々の活動において職員の方々から協力を得ることができ、目的を達成することができた。 ・ゴミの分別、減量化に関しては社会的な要請もあり今以上に生徒にアピールを継続し、向上を目指す方法を考えたい。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、各教室の換気に対する意識付けを徹底する方法を考えたい。 ・植栽活動は本校生徒の自主性 団結力 協調性 環境意識などを養うだけでなく、地域住民や本校を訪れる他校生へ癒やしを提供するものと考えるので、来年以降も感染症の影響を受けない、活動方法を考えたい。 ・防災、安全教育は生徒による防災活動の第一歩であり、自らの学校を安全で過ごしやすい場所にするための活動となります。災害に強い安全な学校組織の構築を目標として、職員生徒の防火防災意識を育む活動を考えたい。	感染対策を講じながら、「花いっぱい運動」をはじめ、生徒による環境美化の推進に努める。 生徒の防災意識を高めるためにも、計画的な避難訓練・消化訓練等の実施に努める。
		・計画的な清掃活動を実施し、快適な学校環境の向上を目指す。	B					
		・清掃用具の適切な配当を図る。 [委員生徒による年2回の配当状況確認作業]	B					
		・ゴミの分別、減量化及び省エネ等に努め、持続可能な社会に対する取組を進める。	B	B				
		・「花いっぱい運動」を実施する。	A	A				
		・植栽活動を行い、環境向上を目指す。 [生徒参加の植栽活動を年2回実施]	A					
・防災、安全教育の充実	・生徒の安全意識を高め、自己防衛のための判断力の向上を図る。 ・教室掲示や避難訓練による避難経路の意識付けを行う。 ・避難訓練および防火訓練を、それぞれ1回以上実施し、防災意識及び実行力の向上を目指す。 (昨年度1回実施)	B	B					
		B						
		A						
総務	・情報発信の推進	・生徒、保護者連絡システムを広げ、緊急事態に即応できる連絡体制を充実させる。 ・学校への関心が高まる広報活動としてホームページの内容を充実させる。 [HP上の全日制NEWSのアップロード数 A:80回以上 B:65回以上 C:50回以上]	A	A	A	緊急用として保護者等にメールアドレスを登録していただけだ。 今年度は、部活動のページを一斉にアップデートしていただいたため、アップロード数は460回になった。 コロナの影響もあり、連携を深めるための丁寧な説明や十分な対話ができているところがある。	新たな試みとして、学校の主な施設を360度VR撮影した。この内容をホームページに組み込むことにより、学校への関心をより高めていきたい。 ホームページの閲覧者数については、奈良商工高校全体としてどれだけあるかは見るができます。	令和4年度からホームページにパノラマツアーを取り入れる。今後も継続して効果的な情報発信に努める。
		・100周年記念事業の推進	B	B				
機械工学科	・学科の特色や魅力の発信と活性化	・学科のホームページを積極的に更新する。 [A:6回以上 B:5~3回以上 C:2回以下]	A	A	A	本年度は11回の更新で目標を達成し、学科の特色を広報できたと考えますが、昨年度の更新回数にはおよびませんでした。 地域に製作物やパネル展示は出来ませんでした。教員の提案から、足踏み式消毒スタンドを配布した約30校の中学校3年生全員に対して配布する本科のピラを製作しました。そして、消毒スタンドのメンテナンスを兼ねてピラを届け、対面で中学の先生方に魅力を伝えることが出来ました。 1学期、1社だけのデュアルシステムしか実施できませんでした。参加した生徒3名は、バスの整備実習を通して自動車工学の知識をさらに深めるとともに、進路選択に際しても大いに役立ててくれました。 4科目において教員がプレゼンテーションソフトとYouTubeで配信されている動画等を活用し、授業を展開できました。しかし、それをリモートで効果的に用いるスキルは、教員によりばらつきがある。	コロナ禍でも、課題研究の作品や、教員の専門的研修会など普段あたりまえにやっていることを意識することで、活動の様子を広報できることがみえてきた。 来年度は、進路の決まった生徒と共に出身中学に出向き、スタンドのメンテナンスとピラを配布したい。リモート学習の様子や実習の様子を動画で配信することも検討する。 教員の提案により、事務室玄関前に各科の課題研究代表作品を展示する。 生徒にデュアルシステムの取組を紹介し、新学期までに希望生徒を募集する。 プレゼン用教材動画の整理とファイルの共有化を図る。	令和4年度から新学習指導要領・BYODが始まることから、新しい授業の進め方、教材の作成に努める。 インターンシップ・デュアルシステムの推進等により実学教育の一層の充実を図る。 地域との連携等を通じて、機械科の魅力を積極的に情報発信する。
		・地域において、製作物やパネルの展示をする。 [A:3回以上 B:2回 C:1回以下] (昨年度2回)	A					
		・取組の様子を、校内でも積極的に啓発する。 [A:4回以上 B:3~2回 C:1回以下] (昨年度3回)	B					
		・技能検定の合格率を向上させる。 [A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上] (昨年度75%)	A					
・地域社会との連携教育推進	・デュアルシステムを積極的に推進する。 [2社以上/年] (昨年度2社)	A	C					
		・動画教材の開発	B	A				
・各科目の基礎基本や要点を精選し、効果的な動画教材を試作する。 [A:3本以上 B:2本 C:1本以下] (昨年度1本)								
	・3つのコンセプト「伝統技術の継	・コンセプトに沿った取組が報道機関に掲載されるようにする。 [5回以上/年] (昨年度6回)	B	B	A	コロナ禍のため多くの制限があり計画していた取組が進められなかったことで報道機関にアピールできなかった。	コロナの終息を願う。来年度の入学生よりカリキュラムが変わる中でも多くの経験をさせられればと取組について考えて	一層の資格取得のため指導・支援

	承)「先端技術の習得」「起業家育成」を基に様々な取組の推進	・コンセプトに沿った取組も含めて「本学科で学んで良かった」と答える生徒を育てる。 [アンケート結果 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上]	A			令和3年度卒業生に実施したアンケートの結果より、「本校建築工学科で学んで良かった」を選んだ生徒は35人中(1人欠席)31人が選択してくれ88.6%となり今後も継続させたい。 資格については、2つ2人(5.7%)、3つ12人(34.3%)、4つ5人(14.3%)、5つ以上16人(45.7%)と生徒がよく頑張ってくれた。	いきたいと考えている。良かった部分は継続させ、取り組めなかった取組について改善点を取り入れ実施できるようにしていきたい。	体制の充実を図る。
	・資格取得に興味をもたせ、積極的に取り組ませる。	・様々な資格取得に取り組ませる。 [2個以上の資格取得者 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満]	A	A				
情報工学科	・各種技能検定等の国家資格取得生徒の増加を目指した指導体制の充実	・多くの生徒が国家資格を取得できるように指導する。 [2年生取得者 A:35%以上 B:20%以上 C:20%未満 (昨年度18%)	C	C	B	各種国家資格取得生徒の増加を目指した指導体制 ・専門学校や職業能力開発協会から社会人講師を起用した。 ・生徒が苦手な項目などに重点を置いた指導を行った。 ・取得人数は若干名にとどまった。 学校の魅力や特色を発信する積極的な活動 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの行事などが中止となった。 ・昨年度を踏襲しつつ多くの活動を改変、計画した。 ・例年行っている高校生による小学生対象のプログラミング教室を中学生まで対象を広げ募集した。 ・中学校への出前授業は新規に1講座(三笠中)実施、2講座(都跡中)計画を行った。 ・情報研究部の金賞受賞、世界大会参加など様々な取り組みについて各種メディアで報道された。	各種国家資格取得生徒の増加を目指した指導体制 ・今後は生徒の学力を確認しながら指導方法など臨機に対応していくことが必要であるとする。 ・資格取得の意義やメリットなどを展開し、資格取得の啓発を積極的に行う。 ・職業能力開発協会と連携し、放課後も資格取得をサポートしてもらえる社会人講師を起用する。	一層の資格取得のため指導・支援体制の充実を図る。
	・学校の魅力や特色を発信する積極的な活動	・県内の小中学校や、市町村教育委員会の要望に応じて、連携によるロボットプログラミング教室等を実施することで、情報工学科の魅力や特色を伝える。 [2回以上/年]	A	A			学校の魅力や特色を発信する積極的な活動 ・高校生によるプログラミング教室の内容を改善する。 ・中学生への出前授業の対象学校を広げる。 ・情報研究部で金賞受賞3連覇を目指し、各種世界大会に参加し、積極的にメディアへ報道資料を送る。	
		・奈良県職業能力開発協会や県内企業等からの発表の機会に積極的に参加し、情報工学科の魅力や特色を伝える。 [2回以上/年]	A					
商業科	・資格取得の充実	・主体的に資格取得について目標を立てることができるように導き、その達成を目指す。 [1年各種全商検定試験2級平均合格率40%以上 A:40%以上 B:35%以上 C:30%以上]	B	B	B	主な各種全商検定の合格率は、以下の通りである。 1級 簿記15% 情報22% ビジネス文書46% 珠算24% 英語2% 2級 簿記13% 情報41% ビジネス文書46% 珠算76% 英語1% 商経41% 各科目とも、学習環境の充実、課題提出や授業内容の工夫、長期休業中、放課後等の補習指導に重点を置いた。検定試験の難易度が年々上昇しているが、目標を達成できるように努力を重ねていきたい。 課題研究などの体験的な授業では、一般の方と接することもあり、社会人特別授業等で学んだ、ビジネスマナーや挨拶の仕方などを実践することができた。	全商検定1級のレベルは年々上昇している。しっかりと知識や理解力が求められている。検定合格率を上昇させるためには、生徒の理解力を向上させる必要がある。先生方が連携し、共通理解を深め、一貫性のある指導を行うことで生徒に還元していきたい。さらに、BYODによる1人1台の端末にてアプリやデジタル教材を活用し、知識も意識も向上させたい。意識が変わることで、学習に向かう姿勢も変わり、全商検定だけでなく様々な検定に挑戦していく生徒を育てたい。 また、ビジネスマナー講座では、学んだことをその時の授業だけで終わることなく、毎日の授業の中で実践し、「ビジネスマナー」をビジネス科として意識付けをしていきたい。さらに課題研究などの体験的な授業で展開することにより、生徒の可能性を広げていきたい。	全商検定を中心とする一層の資格取得のため、指導・支援体制を強化する。
	・ビジネスマナーの習得と挨拶の徹底	・社会人特別授業などをおして、挨拶の重要性やビジネスマナーを身に付けさせる。体験的な学習で実践する。	A	A				
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。	A	A	A	奈良商工の1期生として自覚と誇りを持ち、素直で明るく、挨拶と笑顔の絶えない学年を目指して取り組んでいます。 その中においても、1年生の生徒達の表情などを見ていると、苦境にめげずに自ら明るく挨拶するなど前向きに努力して頑張っている生徒が大半で、非常に力強く感じられた。基本的生活習慣においては、2学期以降において遅刻が目立ったものの最終的には1月末の段階で364回と当初の目標を達成できそうである。 コロナ禍においても担任と教科担当が今まで以上に丸となって生徒に情熱を注ぎ、放課後遅くまで粘り強く生徒と係わり例年以上に学習の時間の確保を実践することで、学習成果の向上や生徒個々の成長の要因となっている。ただ学習への意識が十分でない生徒やコロナ禍において出席できない生徒への支援が今後の課題となる。 保護者からも、本校の教育活動全般に対する理解が多く得られ安心して学校生活を続けている生徒が多い。しかし、4月当初の部活動の入学率(76.3%)が退部により	朝の学年連絡や学年集会等を利用し、学年全体としての方針、方向性を示し、教員の共通理解を計り積極的に教師から生徒に声をかけることで意識の向上に努める。 遅刻防止の一環として、学年全体に8時30分登校の実践と週2回以上の生徒に対して遅刻指導を実践する。 鍵付きロッカーによる貴重品の管理体制を学年全体としてバラツキなく進める。 家庭学習に関するアンケート結果を生かし、より効果的な学習の理解の向上に努めていきたい。また、1・2学期の不振点解消率69.3%から向上させたい。 また、家庭学習や学習内容の理解など、困っている生徒に対してはGoogle Classroomの積極的な活動などで学習の支援体制を充実させたい。 保護者との連携を密にすることで本校の教育活動の理解を継続していく 来年度当初、各HRや学年集会等において部活動の加入を積極的に心がけるようにしたい 配慮生徒や特別な支援が必要な生徒への対応に関しては、で	
		・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくりを行い、学年全体遅刻500回以下を目指す。 [A:300回以下 B:500回以下 C:600回以下]	B					
		・特別指導の絶無を目指す。 [A:5件以下 B:10件以下 C:15件以下]	A					
	・基礎学力の向上と成績不振者指導の強化	・原級留置生徒を出さない粘り強い指導体制を構築する。	A	B				
		・良好な授業態度の保持と不振科目を作らせない雰囲気づくりを行う。	B					
		・提出物指導を徹底する。	B					
		・実技に関する科目の理解を進める。	A					
その他	・部活動に積極的に入部させる体制づくりを進め、入学率70%を目指す。 [A:65%以上 B:55%以上 C:45%以上]	A	A					
	・配慮を要する生徒の対応については、保護者との連携を密にし、適切に行う。	A						
	・アルバイトについては、学校生活を優先させ、極							

		力認めない指導体制を構築する。				低下しているため、今後の課題となってくる。コロナ禍で家庭環境の変化によりアルバイト申請の生徒が増加しており、ややもすると学校活動全般に対する目的意識の低下が懸念される。	きる限り普通の学校生活ができる支援体制を、教職員や他の生徒の理解を得ながら構築していかなければならない。 ・生徒の不安の解消に努めるために、スクールカウンセラーを積極的に活用していく。			
第2学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。(教員から率先して行う。)	B	B	B	基本的な生活習慣を身に付けさせることによって、全ての部分において良い循環になると考え、このことを中心に据えて生徒達を指導してきた。 両担任の先生方からの日々の声かけや家庭との連携、授業の開始前・終了後の巡視、昼食時の見守り等の機会が生徒とのコミュニケーションを増やす機会となり、生徒と先生方の関係もより強固になってきている。担任の先生方による日々のこまめな声かけによって、生徒達との関係が築けたことにより、こちらの言葉が少しずつ浸透していると感じている。欠席や遅刻を減らしていくよう、「時間に対する意識を高めさせたい」という思いをもちながら生徒達を指導してきたが、特定の生徒の遅刻が減少しないことが現状である。ただ、生徒達の中には、我々がよく口にしている「欠席や遅刻の0は消せない」という言葉を理解し、皆勤を目指している者もいるということに耳にしているため、そのような生徒が一人でも増えるように、これからも継続して指導していきたいと考えている。 学習については、努力不足と思われる生徒が多数いることに加えて、コロナ禍のこともあり、「何とかなるだろう」という油断や甘えがあるように感じている。これらについても、両担任の先生方からの日々の指導や教科担当との連携により、少しずつ学習に対する意識が高まってきている。これから卒業後の進路を考えていく時期になっていくので、日々の授業への取り組む姿勢等にも触れながら、「一日一回、机に向かう」ように指導していきたいと考えている。	① 学年集会等を利用して、学年全体としての方針や方向性を示していく。令和2～3年度はコロナの影響により、なかなか実施できなかったため、3年生の4月には積極的に実施する予定である。			
		・予鈴(8時35分)での着席を指導する。	B				② 挨拶や教師に対する言葉遣い、礼儀作法の指導は、卒業後のことを考えても、十分に指導しておく必要があるため、各クラスが中心となり、今後も粘り強く指導を継続していく。			
		・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくりを行い、学年全体遅刻500回以下を目指す。 [A:500回以下 B:600回以下 C:700回以下] (昨年度1年生次770回)	C				③ スマートフォンの取り扱いについて、学校の規則にあるように「電源を切って、鞆に入れておく」ということを徹底させたいと考えているが、あまり出来ていないというのが現状である。制服のポケットに入れている生徒も多数おり、どうすれば鞆に入れることを徹底できるのか思案している。			
		・授業と休み時間のけじめをつける。	B				④ 本学年は1年生の頃から「メモをとらせる」ということを実践してきた。社会に出れば、備忘録としてのメモの活用が大切になる。 ・毎朝、手帳を机に出させ、その日の予定を書き込む。 ・金曜日の終わりのSHRで一週間の振り返りを行う。 ・月曜日の朝のSHRで一週間の目標を掲げる。 ・定期考査の目標設定や学習時間の記録・振り返りを行う。メモの重要性については、教師側の意識改革をし、統一した指導が徹底できるようにする。			
		・朝食の大切さを理解させ、しっかりとるように指導する。	B				⑤ 来年度は最終学年となるので、「第一志望に合格することにこだわった進路指導」を実現するためにも、教師側の意識を高めていく必要があると感じている。我々が妥協せず、生徒達には常に今より高いものを求めていくことを実践する。			
	・基礎学力の向上	・授業態度の向上を図り、真面目に取り組むことが当たり前という雰囲気づくりを行う。	B	B			・授業の開始終了時刻を遵守し、引き締まった雰囲気の中で授業を実施する。	A		
		・ノート、課題、レポート等の提出に対する指導を徹底する。(担任と教科担当の連携)	B				・担任と教科担当の連絡を密にし、授業時の実態の把握に努める。	A		
		・成績不振者を出さない指導体制を確立する。	C							
		・進路実現に向けての取組	・常に卒業後のことを意識させ、妥協することのない進路指導を行う。				B			
			・保護者との連携を積極的に行う。				A			
	・進路指導部や各教科、関係機関との連携を密に図る。		B							
	・インターンシップへの参加率50%以上を目指す。 [A:50%以上 B:30%以上 C:10%以上]		—							
			・昨年度と同様に、メモを取る習慣を定着させ、PDCAサイクルを確立させる。	B						
	第3学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。	A			B	B	挨拶に関しては入学時以来積極的に継続して行ってくれた。朝の登校時はもちろん、下校時まで校内どこですれちがってもほとんどの生徒が気持ちよく生徒の方から挨拶してくれた。 遅刻、欠席、早退の減少という目標は理想通りにはいかなかった。HRによっては遅刻数が大幅に増加し、コロナの影響もあったが基本的生活習慣が大きく崩れた。 スマートフォンの指導には難しさを感じる。特に昼休みと放課後は指導が行き届かない状況にある。 全員卒業を最大の目標の一つにしていたが精神的なストレスと難病ともいえる体調不良からくる不登校が原因での進路変更があった。 各科の特徴と本人の希望通りの進路の実現がほぼなされたと思われる。コロナの影響で進路対策の遅れが懸念されたが生徒の努力と先生方の全力のサポートにより予想以上の成果があがった。 MSRはコロナ期間の時差登校の影響で絶対量がすくなくなかった。進路対策に当てる時間がほとんどなかった。高校生活の3分の2をコロナの影響をまともに受けた学年であり、行事や部活動等が中止、延期、規模の縮小になった。特に修学旅行の実施ができなかったことが生徒たちには気の毒で	基本的な生活習慣や挨拶の習慣は卒業後も最も基本的で大切な要素である。高校生活の間に良い習慣を身に付けさせる必要がある。 スマートフォンの使用に関する指導は、けじめをつけて使用を認めていく時期にさしかかってきている。来年度よりタブレットを持った生徒が入学してくる。マナーを守った使用に切り替えていく時期かもしれない。 コロナの感染状況が今後も周期的に継続することを想定しながら学校運営全般を計画していく必要がある。修学旅行の計画も行き先、時期等も慎重に検討し、中止になることは避けていきたい。 進路の実現に向けては、何よりも生徒本人の意識が肝心である。どれだけ早く将来に向けての目標をもたせるかが大きな課題である。コミュニケーション能力の不足している生徒が就職試験では苦戦しているのは間違いない。そのことを早い段階で生徒に伝え面接練習等を実施していく必要がある。 今後さらに多くの配慮の必要な生徒、発達にアンバランスがある生徒、性的に多様な生徒、グループに属しないと登校もままならない生徒等が入学してくることが予想される。最前線のHR担任をはじめ学校全体で組織的な指導体制を組んでいく必要がある。一部の教員のみには負担がかからないよう
			・遅刻、欠席、早退を減少させる。 [月5回以上遅刻する生徒 A:0人 B:10人以下 C:20人以下]	C						
			・保健室への来室を減少させる。	C						
・スマホ等の依存を解消させる。			B							
・基礎学力の向上と専門的知識や技術の習得		・追認指導なしでの全員卒業を最低目標とし日々の学習に取り組む。	B	B						
		・授業態度を向上させ、スペシャリストの育成を目指す。	B							
・進路実現に向けての取組		・生徒の進路実現に向けて、意識を高める指導を行うとともに、適切な環境を整備する。 [教員による面接指導実施回数最低5回/1人]	A	B						
		・MSRの時間を弾力的に生かし、一般教養等の学習時間を確保する。	C							
		・全員の進路を確定させる。 [A:100% B:90%以上 C:80%以上]	B							
・その他		・配慮を必要とする生徒の情報共有と共通理解を深め、進路指導を徹底させる。登校が困難な生徒に対しては課題等で補う。	B	B						
		・保護者との連携、特に、生徒指導上の取組に理解	B							

		を求めながら、生徒の学校生活全般を充実させる。			あった。3学期、卒業直前に球技大会を計画したが実現できなかった。	にするべきである。	
		・延期された修学旅行を9月に全生徒参加を目的に実施したい。	C		特別な支援を要する生徒の指導は全職員の協力のもと行い無事に卒業を迎えることができた。特に担任の先生方のご苦勞には頭が下がる。体調面の状態からまだ進路が決まってない生徒もいるが卒業後も関わり、社会で活躍できる手助けをしてやりたい。		